

世界のブドウ市場(要約部分抜粋・一部補足)

[FreshPlaza](#) 2025年8月29日

イタリアの生食用ブドウ市場は、対照的な状況を見せている。シチリア島では、種のあるビクトリア品種の出荷シーズンが好調のうちに終了しつつあり、高品質な果実が国内外で良好な商業的成果を上げた。一方、プーリア州ではイタリア品種の収穫が近づいており、需要は高く、価格は満足だが昨年を下回っている。

ドイツでは、スペイン、フランス、ギリシャ、トルコからの輸入品と並んでイタリア産のブドウが主導的であり、国内産は依然としてニッチな分野に留まっている。

スペインの生食用ブドウのシーズンは、国内最大の産地であるムルシア州で前年より2週間近く遅く6月末に始まった。今夏の度重なる熱波により、赤ブドウ品種では着色が不十分となり、果実のサイズも平年より小さくなっている。スペイン全体では、今年の総収穫量は約32万トンと予測されている。

オランダでは、スペイン及びギリシャからの供給量が減少する中で好調なシーズンとなっている。通常、9月と10月は夏果実の出荷が減ることもあり、イタリア産ブドウにとって絶好の月となる。

北米カリフォルニア州では、サンホアキン・バレーにおいて高品質かつ豊富な生食用ブドウの収穫が報告されている。過去の夏に見られた極端な高温が今季は回避され、好天に恵まれた栽培条件がこの豊作を支えている。ただし、生産者は現在の熱波及び最近の降雨の影響について注視している。出荷の最盛期となり、価格は中程度で推移している。

南アフリカでは、2024/25年度の輸出量が前年比5%増の7,820万箱(4.5kg/箱)に達し、史上最高を記録した。そのうち58%がヨーロッパ向け、18%が英国向けであった。米国向け輸出は、5カ年平均比で20%増、前年比では65%増となったが、30%の関税の導入により今後の成長には課題があると見られる。中国は今や世界最大のブドウ生産国であり、中国・香港向けの輸出は半減し、東南アジア向けも32%減少した。

エジプトではEU及び英国が依然として主要市場であり、安定した輸出プログラムが維持された。アジアからの需要は出荷シーズン序盤の5月と6月には前年より弱かったが、7月から8月には改善した。2025年の平均価格は安定しており、特にシーズン終盤での下落は見られなかった。

インドは天候の影響により輸出量が15~20%減少するが、品質は依然として高いと予想されている。輸出業者は台湾、タイ、カナダ等の新たな市場をターゲットとしており、一方、生産者は多収性、回復力、それに世界的な需要に対応した良い風味を目標に、悪天候に強いプレミアム品種の試験栽培を進めている。

チリは2025/26年度に6,600万箱のブドウ輸出を見込み、前年と同水準を維持する見通しである。米国は引き続き主要な輸出先であるが、ペルーとの競争と価格圧力が強まっている。今年4月に導入された10%の関税が追加的な課題となっており、輸出業者は欧州及びアジアへの市場の多角化を進めている。

ブラジルは引き続き、欧州市場を輸出量の80%以上を吸収するブドウの主要な輸出先と位置づけている。米国市場では一部の品種に最大50%の関税が課されるため、生産物の一部は中南米市場に振り替えられている。成長を維持するため、ブラジルの生産者は中国、アジア、中東市場への展開を強化しており、デジタル・トレーサビリティの導入、新品种の採用、風味及び品質による差別化を推進している。

ペルーは2025/26年度に前年比4%増の8,610万箱のブドウ輸出を見込んでいます。加速する品種の転換が成長を支えており、ライセンス制の品種が栽培面積の78%を占め、プレミアム果実に対する世界的な需要に対応している。米国は販促の主要な対象市場であり、欧州及びアジアにおける消費の拡大にも注力している。中国は戦略的な輸出先として台頭している。

(記事冒頭の要約を元に、一部本文から補足しました。)